

重要な構成要素「川千家」^{かわちや}

建築（主屋）： 1928（昭和3）年

参道の景観を構成する要素

「川千家」は、柴又の歴史ある名物「川魚料理」を生業とする、木造2階建て（一部鉄筋コンクリート造5階建て）の料亭で、巨大かつ複合的な料亭建築を有しています。

参道が大きくカーブする地点に位置するアイストップとなっている建物で、長大な店舗ファザードをリズムカルに分節する2階の欄干^{らんかん}と障子戸、また、厨房、生簀^{いけす}、1階の店構えなど全体として参道景観に占める役割は極めて大きなものがあります。

当初、江戸川の土手付近で鯉料理^{こい}を振る舞う店舗としてスタートし、1900（明治33）年に現在地に移り、既存の建物を利用して営業を開始したと言われています。

主屋部分は1928（昭和3）年に上棟され、木造2階建て、平入り^{ひら}（注）の建築で、厳選された素材が使われています。参道から向かって左手に厨房を持ち、敷地奥には、昭和の終わり頃にRC造の5階建ての客室棟が増築されました。複数の建築が中央に配された庭を介して繋がれることで、巨大なひとつの建築を作り上げているのが特徴であり、料亭の持つ複合的な空間構成が見事に演出され、柴又の料亭建築のひとつの典型となっています。



昭和 58～59 年（帝釈天題経寺提供）

（注）建物の大棟に平行な面、すなわち平に出入口を設ける建築形式。また、平を正面に向けるもの。（広辞苑第七版）